

# 慣例を重んじる通関処理の膨大かつ迅速な帳票処理に、WebSphereの広い守備範囲とSVFの柔軟性をフル活用していく。



INTERVIEW

原田 孝明 氏

三協株式会社  
 情報システム室  
 室長

## ▲大掛かりな通関の帳票処理と電子帳票システム化

名古屋港を中心に年間4万件以上の実績を持つ海運貨物取扱及び通関業者である三協株式会社。メーカーや商社の輸出入貨物の取扱及び通関業務を行い、その関連ドキュメンテーションを主業務とする。税関の仕組みであるSea-NACCS、Air-NACCSをはじめ、2001年12月にサービスが開始されたTED(経済産業省や大手商社、銀行が推進する貿易金融EDI)にも参画。加えて、e-POLINET、BOLERO、GSJなどいまや世界的な動きとして貿易関連の電子文書化の方向にあり、同社はこれらネットワークをいち早く取込みデータの送受信を自社のシステムに活用する。今回WebSphereとDB2による新たなWebシステムを構築し、400近くにのぼる取引先と複雑多岐にわたる膨大な帳票処理の課題を解決する。

「税関など各当該個所に提出する申請書類の作成は複雑で、インボイス、パッキングリスト、インシュランスポリシー、B/L(船荷証券)D/R、輸出ライセンス、原産地証明、輸出入申告書など膨大な書類が存在します。しかも、その内容に応じて各種の集計や書式を整えて動的にチェックしながら通関を滞りなく進めなければなりません」と、同社情報システム室室長 原田孝明氏は語る。「情報伝達の共有性は、貿易業務には必要不可欠で、そのためEDIの導入はどの業界よりも早かった。

当然、各荷主と独自のネットワークを構築し機能させていますが、さらに業界を取り巻くネットワークと社内システムとのシームレスなEDI化が望まれています。我々は各業界団体で別々のEDIを使用していますが、まさに輸出国・輸入国の荷主への情報提供を、これらのネットワークを通して荷主に代わってサービスできるのが、この業界での優劣を決定します。」

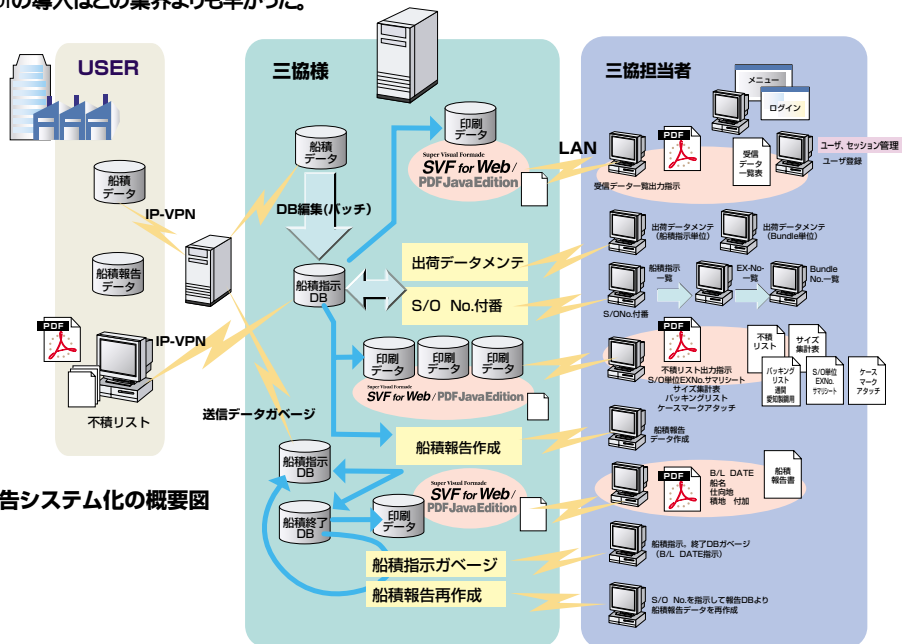
現在ではEDI化によってプリントファイルのシステム構築ができ書類作成時間も短縮されたが、以前は数台のタクシーを確保して、船会社、倉庫会社、銀行、商工会議所、領事館など関連する各所へ関係書類を持参していたという。先鞭を付けるべく、三協株式会社では、日本で初めてとなる「税関提出用電子文書化仕入書情報」を電子帳票イメージとしてCD-Rに保存する仕組みも実現している。

「該当荷主の打出し帳票の削減と税関に提出する書類の削減を可能にし、該当荷主分だけでも出力帳票が年間50万枚からペーパーレスになりました。ひとつの荷主で1年間に四畳半の天井まで書類が高く積み上がった状態から小さな段ボール1つになりました。税関サイドでも保管場所の省スペースが実現できています。」(原田氏)

● 三協株式会社  
 プロフィール

名古屋地区大手の大手通関業として、自動車部品・事務用機器・鋼材等の海運貨物取扱業、通関業海運代理店業等を事業内容とする。  
<http://www.sankyoweb.com/>

大手鉄鉱会社様の  
 船荷指示～船荷報告システム化の概要図



## USERS REPORT

## 三協株式会社

INTVIEW 三協株式会社 情報システム室 室長 原田 孝明 氏

## ▲「人に見せるため」の帳票出力システム

「我々が力をいれる海運エージェンツでは、主要な自動車部品や事務用機器、そして今回新たなシステム構築した鉄鋼製品の取り扱いがあります。鋼材の船積みをめぐるストレージプランは、ハンドル単位やサイズ、重量別にリアルタイムな情報が不可欠で、荷主の最大の関心はまさに「現在の荷の状態」であり、そのためにWebでのシステム構築が絶対条件です。そこで実績と安定度からWebSphereとDB2の導入を計画しました。

クライアントである大手鉄鋼会社様に向けたシステムでは、船積指示から船積報告までをWebサーバでデータを編集・管理する。荷主からのオーダーを受けると同時にデータベースが自動的に起動、データをバッチ処理しています。荷主のオーダーである船積指示とは別に、実際に荷がどのように積み込まれたを記載する「船積終了報告書」というものがあります。これは船会社の判断で「不積み」とされた積み込まない荷も一部に出てくるため、「現在の荷の状態」をWebSphere/DB2で編集・管理。「船積指示書」「船積終了報告書」などに分類され、荷主にとって見やすいデータとして成型されます。」(原田氏)

とくに、申請書と倉庫数量の同期をとる帳票には「データを一瞥して状態を把握できる集約力」と「誰でも簡単に閲覧ができる利便性」が条件となる。帳票開発には、この2点がハードルとなった。

▲『帳票のウイングアーク』を評価  
編集能力が高く応用のきくツールだ

業界の慣例で帳票表現に要求されるものに、連番は『01～09』と省略して各品目のくりごとに集計データを記載する様式がある。一見、変哲のない帳票だが、いざ印刷データから帳票出力しようとする難度が高い。日頃から既存のツールを使いこなしていく技術、ツールを応用するシステムの柔軟性、プログラムレスによる時間とコストを意識される原田氏は、いくつもの帳票ツールを実地に評価した。

「私自身が東京・渋谷のウイングアークに出向いて、開発の担当者に詳しく内容を聞いて、『どこまでできるのか』を確認しました。SVFの場合、『制御』『編集』の能力が高く、関数が豊富で期待する帳票が難なくできました。通関の帳票処理こなせるものがここにあったか、なるほど『帳票のウイングアーク』とあらためて実感しました。SVFという帳票設計の編集能力と、それと連動した帳票をPDFで生成できる評価で、帳票ツールSuper Visual Formadeと実行するSVF for Web/PDF Java Editionを採用しました。」(原田氏)

ソフトウェアの進化発展は、慣例の多い貿易業務で使えるかどうかが目安になるといわれるほど、業界が測る物差しになっているという。SVFによる帳票開発についても、我々の業界で使えるならば日本の企業システムには十分満足されるだろうとも話す。WebSphere/DB2とSVFの組み合わせは、荷主の過酷な要求にも耐えうることが立証されたので、他のクライアントに向けても導入する方針とのこと。

IBMユーザーの会にも参画する原田氏は、いろいろなツールを把握しておくことは、どの企業のシステム担当者にとって必須条件であると言う。「WebSphereもSVFもこれから先、何年か使い続けて評価してみたい。現状、まだまだSVFに要求したいことはいくつもあり、これから応用させていきたい考えです。どこまでが限界なのか試してみたい。その柔軟性を全開にすれば、今よりもっと効率的になるはず。いずれすべての帳票出力をSVFに移行する考えです。」(原田氏)



ウイングアーク テクノロジーズ 株式会社

<http://www.wingarc.com/>

[本社] 〒150-0044 東京都渋谷区円山町28-5 1st渋谷ビル  
TEL:03-5962-7300(代) FAX:03-5962-7301

[西日本] 〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-8-17 大阪第一生命ビル11F  
TEL:06-6225-7481 FAX:06-6225-7482

[中部日本] 〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦2-3-4 名古屋錦フロントタワー3F  
TEL:052-218-9520 FAX:052-218-9521

[開発元] 株式会社エフ・アイ・ティ